



兵庫県議会議員

石井ひでたけ



石井ひでたけ県政報告

Vol.94

2021年 初夏号

発行元: 石井ひでたけ事務所

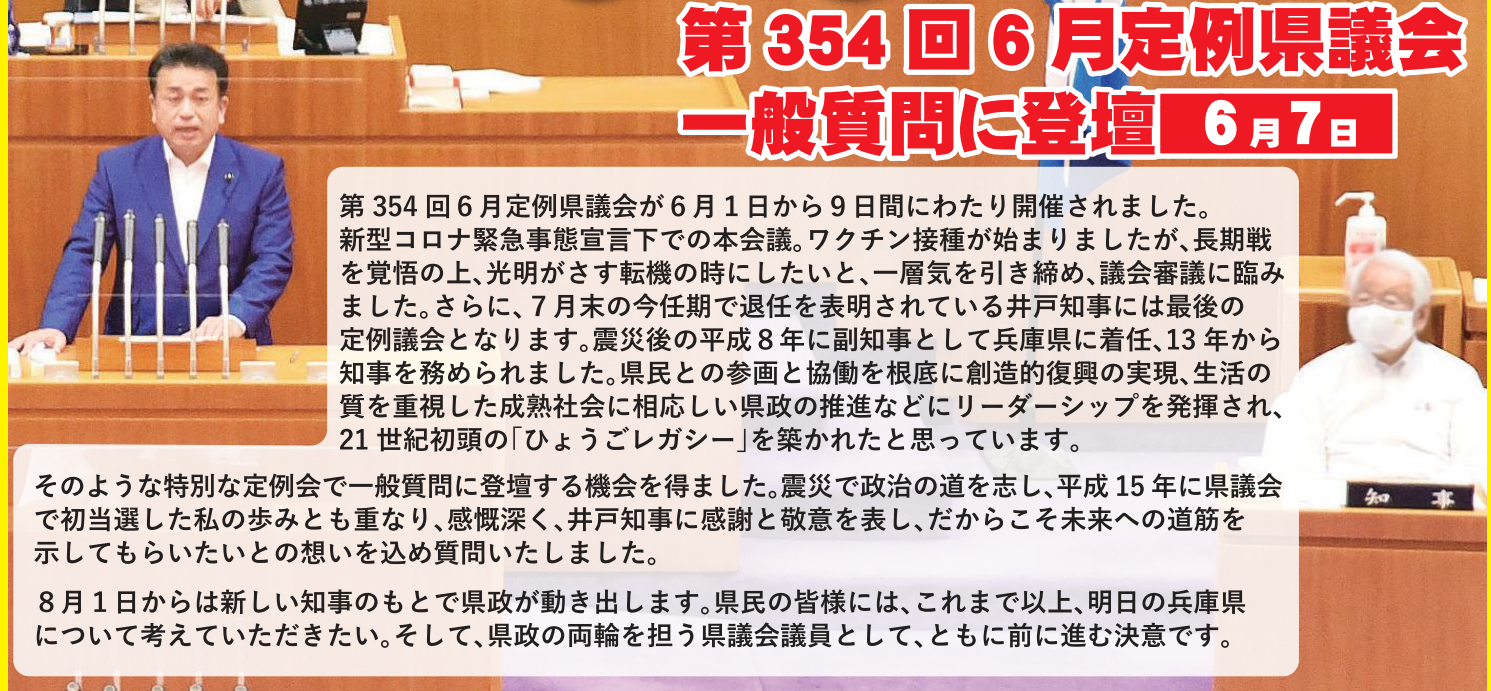
みるみる通信

日々の活動は
ブログを
ご覧ください



～第2ステージはじまる～
まっすぐに ひたむきに
県政へ 全力投球

第354回6月定例県議会 一般質問に登壇 6月7日



第354回6月定例県議会が6月1日から9日間にわたり開催されました。新型コロナ緊急事態宣言下での本会議。ワクチン接種が始まりましたが、長期戦を覚悟の上、光明がさす転機の時にしたいと、一層気を引き締め、議会審議に臨みました。さらに、7月末の今任期で退任を表明されている井戸知事には最後の定例議会となります。震災後の平成8年に副知事として兵庫県に着任、13年から知事を務められました。県民との参画と協働を根底に創造的復興の実現、生活の質を重視した成熟社会に相応しい県政の推進などにリーダーシップを発揮され、21世紀初頭の「ひょうごレガシー」を築かれたと思っています。

そのような特別な定例会で一般質問に登壇する機会を得ました。震災で政治の道を志し、平成15年に県議会で初当選した私の歩みとも重なり、感慨深く、井戸知事に感謝と敬意を表し、だからこそ未来への道筋を示してもらいたいとの想いを込め質問いたしました。

8月1日からは新しい知事のもとで県政が動き出します。県民の皆様には、これまで以上、明日の兵庫県について考えていただきたい。そして、県政の両輪を担う県議会議員として、ともに前に進む決意です。

＜ 第3期ひょうご教育創造プランの推進 ＞

石井 コロナで教育現場においても、前例のない対応を迫られている。同時にポストコロナの世界は新たな時代の始まりとも言われ、まさに、第3期ひょうご教育創造プランの重点テーマである「未来への道を切り拓く力」が求められている。プランの計画期間5年の折り返しを迎え、教育長の所見は。

教育長 昨年度のコロナによる臨時休業により、人と人との交流によって、児童生徒が成長することの重要性を改めて認識した。また、従来の既成概念にとらわれない工夫をすることの重要性も認識した。これらを今後の取組に活かしたい。

＜ 知事選挙の投票率向上への啓発 ＞

石井 選挙は民主主義の根幹。投票率の向上は大きな課題。大型商業施設等での共通・期日前投票所の設置などの取組が見られる。播磨町は7月の知事選挙で共通投票所を設置し、町内の投票所で、どこでも投票できるようにするという。コロナ禍での他県の先行事例も踏まえ、知事選挙における投票率向上策は。

選管委員長 新たにWEB 動画の作成、ショッピングセンターでのCM 放送など、非接触型の啓発に重点的に取り組む。宿泊施設や自宅での療養者の郵便等投票を可能とする特例法案が成立した場合の対応も検討を進める。



＜ 今後の県政を担う職員の採用 ＞

石井 少子化の影響で今年度の就活から学生の獲得競争が激化すると言われている。県政を支え、仕事を高い志とやりがいを持って遂行できる優秀な人材の獲得は最重要課題。そこで、将来の県政を担う職員採用にあたって、どのような人材がふさわしいと考え、受験者の確保のためにどのような取組を行うのか。

人事委員長 「課題への対応力」「斬新な発想力」「行動力」「責任感」等を備えた人材が必要。人物重視の選考を行っている。広大な県域をフィールドにした県職員でしか味わえない仕事の面白さを伝え、スマホ世代にも刺さる広報に取り組む。

第354回6月定例県議会報告

(6月1日～6月9日)

○議決案件

・令和3年度県一般会計補正予算(第3及び4号)

＊ 新型コロナウイルス感染症の急拡大による医療提供体制のひっ迫状況を解消するため、国のコロナ対応地方創生臨時交付金等の財源を活用して、医療提供・検査体制の充実・強化を図ります。加えて、中小企業等の事業継続・地域経済の活性化支援や、県民生活の安定化などに取り組みます。

・過疎地域における県税の課税免除に関する条例

・兵庫県立公立大学法人に対する出資 など計19件

○同意人事

・監査委員、公安委員会委員、収用委員会委員の同意 計3件

○意見書・決議

・学校施設への空調設備の設備促進を求める意見書

・投資被害を防止するための法設備を求める意見書(以上会派提案)

・国産の新型コロナウイルスワクチンの実用化を求める意見書 など計8件

二重行政解消と特別自治市にかかる神戸市への対応

石井 県と神戸市の関係は、いまはうまく進んでいる。知事交代後は日常的な事務レベルの連携がとれるのか、疑問に感じる。そこで知事には、二重行政の解消に向けた神戸市との連携及び意思疎通を十分に図っていただくとともに、県議会において特に警戒心の強い、特別自治市の法制化をめぐる神戸市の動きについて、神戸成り立ちの背景などをしっかりと踏まえた上での適切な対応を神戸市に求めるべき。

知事 震災以降、県と市が互いの立場を考えながら協力し合う基本姿勢が出来上がっている。特別自治市については、現行制度のもとで、緊密な意思疎通を図りながら連携・協力していくことで何か問題があるのかないのか、この一番最初の課題を十分に議論することが必要。

行財政運営方針の総点検に向けた選択と集中の実現

石井 平成20年度から30年度までの行革の成果として、1,401事業が削減された。一方、新規事業では「地域創生枠」「ポストコロナ対策特別枠」のように毎年、「新規要求枠」が設定され続けている。この中身を見ると、同じような事業が続いてきたケースもある。「事業をはじめの勇気よりやめる勇気が大切」という言葉があるが、今回の行財政運営方針の総点検でどのようにして成果を上げるのか。



知事 十分検証して選択と集中を徹底する。今後のデジタル化の本格推進、変化に強い産業構造への転換、地方回帰を促す環境整備など、持続可能な行財政基盤を確立するために、しっかりとした3年目の見直しを組織を挙げて実施する。

井戸知事への最後の質問ということで、6問中3問は18年間のこれまでの質問を総括する構成で質問に立ちました。



関西広域連合の行く末と新しい形での道州制

石井 井戸知事には退任後、自由な立場となられる中、ライフワークとして、これまでの各府県首長や経済界、国とのパイプを活かし、「関西広域連合を発展させた形での道州制の設立」に向けて尽力いただきたい。このことが、『国出先機関の丸ごと移管』への答えとなるであろうし、『地域主権改革』の成果の継承にも繋がると考える。知事の所見は。

知事 新たな推進方式を国に提案して、積極的に国の権限・事務の移譲につなぐ努力が必要。広域連合を発展させ、広域課題に対応していくためには、幅広の検討が求められる。私が取り組むかどうかは、辞めてから検討したい。ともあれ、関西広域連合は、しっかりと生かして活用を図っていくべき存在と考えている。

一般質問を終えて...

思い起こせば18年前の11月定例県議会で本会議デビューを果たし以来、17回議場に立ちました。117問の質問を行い、うち58問、実に半分の問いに対し、井戸知事から答弁をいただきました。自転車を活用した販賣の創出など、知事の温かいご理解のもと県施策として日の目を浴びようとしていることに感謝の想いで一杯です。知事とのやりとりが最後となる寂しさとともに、持ち時間をかなり上回るほど丁寧に熱心な答弁をいただきました。



本会議終了後、最後のお勤めで井戸知事へ花束を贈呈させていただきました。

第354回6月定例県議会
一般質問の詳細や当時の映像については
右記QRからご視聴できます▶



警察常任委員会活動報告

警察常任委員会の閉会中の継続調査事件として4月16日に「テロ対策・大規模災害対策等の推進」、5月17日に「人身安全関連事案への的確な対応及び特殊詐欺の撲滅など、犯罪の未然防止に向けた取組の推進」についてテーマに開催されました。

※ 第354回6月定例県議会での議決により、令和3年度は建設常任委員会に所属することになりました。

石井ひでたけ プロフィール

昭和41年4月15日生まれ
B型 西区学園西町在住
白陵中・高、神戸商科大学(現兵庫県立大学)卒、
サラリーマン生活を経て、
阪神淡路大震災直後、会社を退社、代議士秘書
平成11年、西区より県議選に出馬するも惜敗
平成15年、二度目の挑戦で県議会初当選
平成19年・23年・27年・31年 再選

(現在)
兵庫県体育協会 評議員
兵庫県自転車競技連盟 会長 他
(主な経歴) 関西広域連合議会 議員(2期)
兵庫県監査委員 兵庫県産業労働常任委員会 委員長
兵庫県農政環境常任委員会 委員長 他
(趣味) ドライブ 自転車 登山(日本100名山踏破) 他



(趣味) 自撮り😊

石井ひでたけ 事務所

伊川谷事務所
〒651-2113
神戸市西区伊川谷町有瀬537-3
TEL 078-978-0667

玉津事務所
〒651-2133
神戸市西区枝吉1-215
TEL 078-920-2200

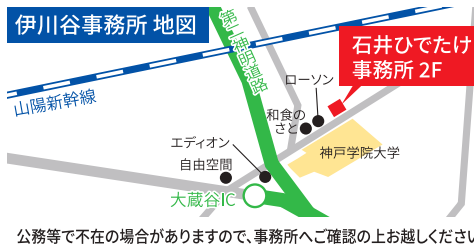
公式サイトは
こちら
Coming Soon



✉ E-mail: ishiihidetake@gmail.com WEB: https://ishiihidetake.info

月曜 県政相談会

毎週月曜日の10時から12時まで
伊川谷事務所にて
「県政相談会」を開催しています。
どんどんご意見・ご要望お寄せください。



公務等で不在の場合がありますので、事務所へご確認の上お越しください。